

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200233		
法人名	有限会社 ベターライフ建築事務所		
事業所名	グループホーム いっぽ		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字蓑原3067-2		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年3月13日	外部評価確定日	平成25年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然環境に囲まれたグループホームいっぽは、入居者の居室の窓から春には綾部神社の桜、夏には寒水川の蛍、秋には堤防に真っ赤な彼岸花、冬は真っ白な里山の雪景色を楽しむことができます。施設のリビングはゆったりと明るく、特に冬は床暖房を設置しているのでホカホカと暖かに過ごしています。台所は対面式なので調理をしながら入居者のお顔が見えますし、食事時になると良い香りが食欲を誘います。また、浴室は数年前にリフト式に改修しておりますので、歩けない方でも安心して入浴ができます。1ユニット9名なので、和気あいあいと家庭的な雰囲気です。介護の面では、生きがいや役割を持って頂くよう掃除機かけ、モップかけ、洗濯物干しやたたみ、食事の配膳や食器拭き、台ふきなど、何か入居者ができることを見つけて続けてもらっています。月に1回は誕生会や行事、ドライブなどのイベントを企画して楽しんでもらうようにしています。また、毎月手書きのいっぽ便りを家族に郵送して入居者の近況をお知らせしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>四季の自然を満喫できる環境の中にグループホームいっぽは建っている。玄関には「あわてず、さわがず、ゆっくり」と創設者の気持ちが込められている。施設長やスタッフもその気持ちを理解し地域の高齢者と寄り添いたい思いがいっぱいである。共有スペースの床は床暖房にされており やさしい暖かさがある。利用者の方の楽しみである3回の食事は利用者さんと一緒に作り職員も一緒に食されている。食事をしながらの和やかな雰囲気は地域密着ならではのものである。いつも一緒に暮らしましょう、という思いが感じられる施設である。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの後、出勤した職員全員で基本理念と目的運営方針を唱和して毎日の介護の中で生かせるように努めています。	創設当時の理念と目的、運営方針である。「いっぽ」という言葉に思いが込められていると施設長もスタッフも感じている。毎朝の申し送り時にみんなで唱和し再確認しながら1日の仕事に入っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の道路や公民館掃除、資源物の分別や燃えるごみ集積所の掃除当番など、地区から声のかかることは参加しています。子供クラブからサツマイモを戴いたり、近くの方が筍や畑の野菜や果物を届けてくださいます。	地区の自治会に入り、区役は施設長が果している。地区の夏祭りに招待されて参加したり、小学生が学校帰りに「トイレ貸して」と寄ってくれたりする。野菜の差し入れも多い。まだ日常的な交流ではないが少しずつ広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	養原の区長や民生委員の方を通して地域で困った方がいらしたときは、いつでも相談にこられるように伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回奇数月の第3水曜日を運営推進委員会の予定として、地域包括支援センター、区長、民生委員、家族代表をメンバーとして開催。毎回テーマを決めて資料を使って勉強をしています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。苦言もあるがそのままにせず、改善に努めている。情報の提供だけではなく、一緒に勉強する場とも考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鳥栖広域や地域包括支援センター主催の会議や研修に参加するようにしています。また困ったことがあった時には直接相談に行っています。3ヶ月に1回介護あんしん相談員の訪問があり入居者から直接意見を聞いてもらいサービスの向上に努めています。	悩みのあるときには相談に出かけている。そのときに解決できないこともあるが聞いてもらうことで安心できる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除マニュアルを作成し職員も研修に参加して、勉強をしています。しかし苑の前が交通量の多い道路に面しており、現在離苑行為を繰り返す方がおられるため、入居時に家族の同意をもらい玄関の施錠を行っています。	身体拘束については研修を重ねている。会議や毎日の申し送りの中でケアを振り返りながら、自由な暮らしについて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H24/11/21日多久中央公民館での虐待防止の研修に参加、1週間後のいっぽ会議で資料を使って苑内研修を実施しました。また研修の機会があれば外部の研修にも参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加して勉強しています。また後見制度を利用されている入居者がおられるため職員にとっても身近な制度です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時契約内容を詳しく説明して判らないところがあれば、いつでも質問されるように話しています。介護職員処遇改善加算と医療連携体制加算を開始する際は全員の家族に詳しく説明して同意書を戴きました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時は入居者の日頃の状況をお話して、介護に対する意見や要望をお尋ねしています。また玄関に意見箱を設置。入居時には契約書の苦情対応の項目は詳しく説明しています。	面会時や電話などで家族の気持ちをできるだけ聞けようにし出された意見は検討し、対処に努めている。玄関に意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の場で各担当者から入居者の状況を挙げてもらい話し合います。またその時に、施設の運営についても話し合い職員全員で意思統一を図っています。	会議の時ばかりでなく、日々の仕事の中でもスタッフの気持ちや改善に必要なことなど耳を傾けるようにしている。話し合うことを大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力に応じた研修の紹介や勤務時間など各職員の事情に合わせて工夫しています。給与について相談があった時は、代表に話をあげるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加するように紹介を行い職員自身も興味を示し参加しています。24年度は県が協賛した研修に4人が自分の休みを利用して参加し、修了証がもらえています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やケアマネネットワーク会議、グループホーム連絡協議会に参加して、情報を得るようにしています。ケアマネさんが見学に見えたりしますが、職員同士の交流はなかなかできていません。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家族やご本人のお話をよく聞きます。入居後は、毎日の生活の中の会話から得た情報は職員全員で共有して、不安をなくし信頼していただけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に詳しく聞き取りを行い、これまでの介護状況をお尋ねして入居後の生活の不安を解消していただけるよう話しをしています。また入居後に対応に迷うような場合は、キーパソンに電話連絡して判断するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族と十分に話し合いプラン作成しています。また入居後の様子を観察しながら、必要と思われるサービスは、施設の方からも提言しています。現在訪問マッサージを2名の方が利用されています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の様子を見ながら、出来られることはしてもらっています。それぞれモップかけ、掃除機かけ、台拭き、配膳、下膳、食器拭き、洗濯物干しなどをしてもらっています。職員を助けていただく場面も多く感謝しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の中には毎日のように面会にみえて、歩行練習をして下さる方や週に数回菓子を持参して一緒にお茶をされる方などがいます。また毎月いっば便りで近況を知らせており喜んでいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の時には、入居者のご友人にも声をかけ参加していただいています。町の夏祭りに参加したり買い物先で友人と会ったりすることもあります。自宅訪問に同行することや自宅付近までドライブすることもあります。	行事にはできるだけ多くの利用者に参加していただくよう心がけている。地域の馴染みのスーパーに出かけたり、施設の周辺を散歩するなどしている。仏さまに御参りするために職員と一緒に自宅に出かけたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寝たきりの方以外は毎日リビングで過ごされるので、家族のように関わりあって過ごされています。時々あるトラブルは職員が声かけをしてなかに入り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は家族に、時々電話連絡をして、様子をお尋ねしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中からご本人の意向や希望を把握したり、直接訪ねたりしています。意思疎通が困難な方は、生活の中の表情や言動また家族からの情報で把握しています。	入居時のみでなく、日々のかかわりの中で個々人の思いや今までの生活について耳を傾けている。本人の気持ちを尊重した支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人や家族から生活歴や暮らし方を聞き取り、入居後は日々のレクや会話の中でこれまでの生活の様子を聞かずに聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で心身状況やADL状況を把握して、現存能力を施設の生活で活かせるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医に意見を聞き職員間で話し合いながら、介護計画を作成しています。ほぼ毎月行ういっぽ会議での入居者についての話し合いがモニタリングの一環になっています。	ケアマネジャーと担当者が話し合いをしながら支援の方針や内容を決めている。評価は月1回の会議の時に全員で行っている。本人や家族の意見をまず尊重することを大事にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録と社長報告書を毎日記録し毎朝申し送りしています。また申し送りノートで日々の情報を職員間で共有してケアの統一や介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に合わせて家族に相談しながら、リハビリシューズやオムツ類衣料品の購入など、工夫をしながら快適で安全に暮らしていただけるよう援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や風の館への見学に行ったり菘春神社での花見や菖蒲見物、山田のひまわりや遊水地へのドライブなどを楽しんでいます。ドラモリやナフコへの買い物も楽しみにされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回かかりつけ医の往診があり緊急時は電話連絡で夜間でも往診をお願いします。また外部の病院に定期的に受診される方がいます。かかりつけ医の判断で他科受診が必要なときは家族付き添いをお願いしています。	原則は入居前の主治医の受診としている。しかし、本人や家族の希望で変更になることも多々ある。主治医と本人、家族のコミュニケーションは十分にとられており、些細なことでも伝え、対応してもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師1名准看護師3名が常勤職員として働いているため、介護職員はいつでも相談指示が受けられます。気づきや情報はすぐに報告して受診や往診につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を文書と口頭にて詳しく行っています。入院後電話での問い合わせも多くあります。また病院に面会に行ったり退院の時期を問い合わせたりします。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期にカンファレンスを開催して家族と今後の取り組みかたを話し合います。重度化した場合と看取りの指針に関する同意書を作成しています。	契約の時に看取りについての説明がされている。変化があった場合は、再度、詳細に説明し、契約書を交わす体制となっている。看取りには家族がゆっくりとごせるような準備もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時は、看護師の指示、医師への連絡、救急車の要請、などの手順を決めて、看護師や医師の指示で応急手当を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て定期的に避難訓練を行っています。区長を通じて地域の消防団にも協力の要請を行っています。	消防署の指導に沿った訓練の実施や書類の保存などはきちんとされている。地元の消防団にも協力をお願いしている。オール電化の施設であるため漏電などの事故が起きないようにコンセントの掃除やたこ足配線等は日常的に点検されている。スプリンクラーも設置さ	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で、入居者に馴れ合いでプライドを損ねるような言葉かけをしないように注意合っています。排泄介助時や入浴時は特にプライバシーに配慮して行っています。	スタッフは入居者を年長者としての敬意を払い、馴れ合いの中で利用者の尊厳を損なわないように意識を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「家に帰りたい。」との希望時には外出や買い物で気分転換をしたり、家族に電話したりと、家族に協力してもらいながら対応しています。おやつやお茶など好みの物を選んでもらい提供するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースで朝食の時間は自由に提供するなど、個々の訴えは少ないのですが一人一人のペースを職員が把握して思いを表現しやすいよう声かけを行い希望に沿えるよう援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれのお手伝いをして生き生きと生活していただけるよう援助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、台拭き、配膳、下膳、食器拭きなど能力に合わせたお手伝いをお願いします。	利用者と職員と一緒に食事の準備をして、一緒に同じテーブルで食事をされている。利用者も自分ができること、例えば食材の下ごしらえ、食器の後片付けなど積極的にかかわろうとされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握して、量の調整をしたり水分を取られない方には、ジュースやポカリなどで摂取されるようにして工夫しています。咽る方や呑み込みの悪い方にはトロミを付けたり、刻んだりして食べてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	援助が必要な方は職員が介助して残渣物がないようにしています。夜間は義歯を預かりポリドント消毒しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在は自立した方の方が多いのですが、排泄介助が必要な方は、希望時と排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っています。	排泄の自立が理想と考えている。施設長を中心に羞恥心や不安を軽減するための配慮が実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は新鮮な野菜をたくさん使った献立を心がけています。排泄チェック表を確認して便秘の時はバナナや牛乳を多く使って排便を促すようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日はだいたい決めた曜日で実施しているが、行事等に変更することもあります。また、各自の体調に合わせて行っています。浴室にはリフトを設置して、身体状況に合わせて入浴していただけるようにしています。	週4日入浴日があり、利用者は基本週2回入浴している。入浴時間は午前中となっている。リフトの設置など利用者の安心と満足、スムーズで安全な入浴を支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況を把握して午睡などを実施したり、昼夜逆転の防止のために気分転換して、昼間の傾眠を予防したり、状況に応じてそれぞれに援助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に管理を行い個々の薬剤情報提供書を作成しいつでも見れるようにしています。症状の変化によっては、かかりつけ医に連絡して指示を仰ぎ調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かしたホームでの役割を探して続けてもらうようにしています。飲み物やおやつにも好みがあり、好きなものを差し上げるようにしています。外出できる方は散歩や買い物気分転換になっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に外出欲求が強い方は、買い物やドライブまた気候の良い時は散歩に付き添います。他の方も声かけして一緒に買い物やドライブ散歩にお連れするようにしています。	利用者の状態に合わせた外出の支援が行われている。帰宅願望の強い利用者には馴染みの所に積極的に出かけるなどの支援が行われている。日々の買い物にも出かける支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しっかりされた方は自分で金銭管理をされています。管理を必要とされる方はお小遣いを管理して各自出納帳を作り定期的に家族に残高確認をお願いしています。希望される時には、一緒に買い物に出ます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を希望される時は支援しております。暑中見舞いや年賀状、手紙が届く入居者もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南側で明るく、冬場は常時床暖房を使用しており暖かく快適な空間です。お花や人形、壁にはそのシーズンごとの絵を飾り季節を感じていただくようにしています。	利用者の居心地の良さや心身の活力を引き出すために、床暖房、家具の位置などさまざまな工夫がされ、生活感や季節感のある環境づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや食卓の席はほぼ固定しており、自分の席に座りテレビやレク、他入居者の方との会話を楽しんでおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人に自宅にあるもので使えるものは持ち込まれるようにお話しています。使い慣れたタンスや家族写真を持参されている方もいます。	居室には、写真や思い出の品々が持ち込まれている。また、リサイクル品を活用するなど、それぞれの利用者の居心地のよい環境づくりに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や浴室、トイレなど表札を貼り見て解るようにしています。廊下には手すり玄関は段差がありますが、車いす利用の際はスロープを設置して安全に外出していただいています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない